

金属錯塩型直接染料木綿染色布に対する洗剤ビルダーの影響

○後藤純子* 鈴木映理** 齊藤昌子** 永山升三**

(*共立女大・院、**共立女大)

<目的> 染色堅牢度向上のために金属媒染が行われるが、金属媒染染色布を金属除去作用の強いビルダーを配合した洗剤で洗浄した際の染色布に対する影響については、未だ明らかにされていない。著者らは前報¹⁾で、金属塩との錯体形成能を有する直接染料を用いて、ビルダーおよび界面活性剤の金属除去作用について検討し、金属除去効果の強いビルダーは、洗浄過程で染色布中の金属を除去し色相を変化させるという結果を得た。本研究では、ビルダーおよび界面活性剤で洗浄を行った染色布の日光堅牢度及び洗濯堅牢度を調べることにより、金属媒染染料に対する洗剤ビルダーの影響について考察した。

<方法> 直接染料 C.I.Direct Red 80、C.I.Direct Green 59 で染色・後媒染した染色布および含銅染料 C.I.Direct Yellow 130 で染色した染色布を、界面活性剤として LAS、ビルダーとして EDTA、STPP およびゼオライトの組み合わせで洗浄し、フェードメーターを用いて暴露することにより日光堅牢度を測定するとともに、JIS L 0844 B 法により洗濯堅牢度を測定した。暴露および洗濯後の測色にはマクベス CE7000 を用いた。

<結果> 金属錯塩型直接染料染色布の日光堅牢度は、銅処理を行うことによりかなり向上した。また、銅除去効果の高い EDTA、STPP を加えて洗浄した染色布の日光堅牢度および洗濯堅牢度は、洗浄前の染色布に比べてかなり低く、洗浄過程での銅の脱落が堅牢度に大きく影響することがわかった。

1) 日本油化学会第 30 回洗浄のシンポジウム要旨集、p 165 (1998)